

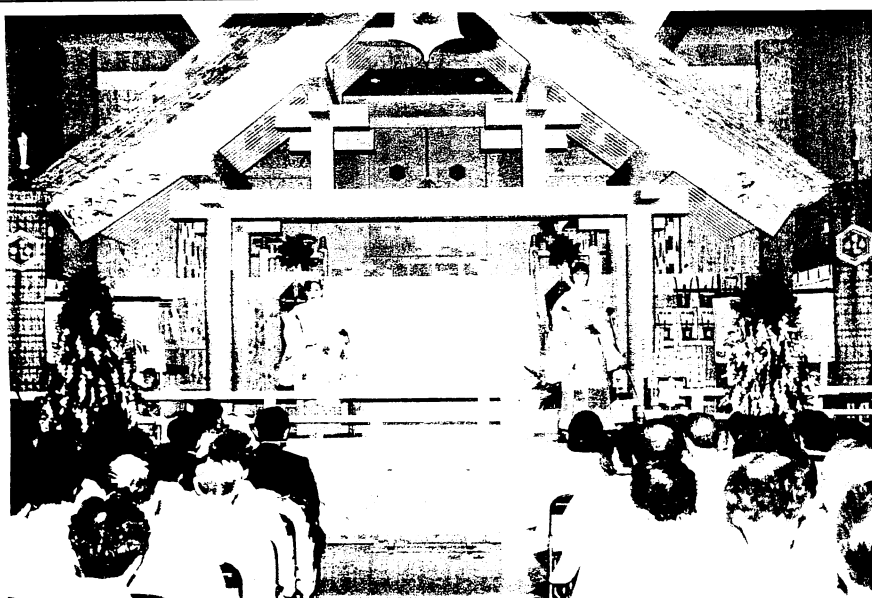
# 心友会だより

第 3 6 6 号

昭和44年6月1日創刊  
平成16年10月8日発行  
発行所及責任者  
川崎市多摩区東生田4-13-17  
電話番号 044-976-0708  
郵便番号 214-0031  
宗教法人 出雲心友教会  
宗兼 佐藤武彦  
毎月8日1回発行  
1部150円(送料共)  
年間購読料1,800円

## 秋季例大祭

平成十六年もあつという間に九カ月が過ぎ、秋季例大祭まで半月余りとなりました。この日は、大神様からの波長を直接お受けになれる



大祭での巫女舞

数少ないチャンスの日でもあります。(年間五日ありますが、その内の一日。他には、春季例大祭と正月の三箇日に御屏が開きます。)

また、大神様は、お礼まいりなどの感謝のおまじりをおの最たるものが、例大祭のおまじりです。

感謝の気持ちを常に持つて生活している人と、そうでない人との間には、一生を考えた場合、色々な点で差が生じるはずで、『感謝して生活する』のも一生、『愚痴って生活する』のも一生なのです。

さて、そもそも大祭は、皇室の祭祀の一つとして、天皇が親しく執り行なう祭典即ち、元始祭・皇霊祭・神殿祭など最も重い御祭であり、今では各神社ごとに重要な御祭としてお仕えさせて頂いています。

出雲心友教会では、毎年

春と秋の二回、例大祭として盛大かつ荘厳に執り行われます。

平成五年十一月二十三日の神迎祭参列の時「神や仏の裁きの年は、まだ終わっていない。天変地変も今年(平成五年)より多い。政治経済も波瀾万丈で、厳しい年になる。しかし、『神は守護する。』という有難い御霊示が出て十年以上が過ぎました。

何が有難いのかと言えばそれはもちろん『神は守護する』という力強いお言葉のことです。

『神は守護する』という有難いお言葉を誰にでもわかる様、光という目に見える現象として私たちにお知らせ下さった大神様は、本当にすごいと思えました。

本当の信仰者は、この奇跡とも言えるべき光、言いかえれば目に見える現象で、一喜一憂してはいけないうちもかもしれません、心友会設立以来の現象で、本当に考えられない奇跡である事に間違いはないのです。大國主大神は私たちを御守護

して下さっている事だけは事実であり、誰もが知っているところだと思えます。

さて、今年の秋季例大祭ですが、日程は十月二十四日(日)の正午からとなっておりますので、今から心づもりされて、是非おまいり下さいませ。

肉体の親は、言うまでもなく自分の両親ですが、魂の親、心の親は、大國主大神に他なりません。

親、友人などの人間はごまかせても、自分と大神様は、絶対にごまかせないのです。

ですから、一日一日を自分の気がとがめない様に、大神様に裁かれない様に、大切に生きて行きたいものです。

我々人間は、この世(頭世)に、前世(生まれ変わる前)の果たしや、先祖の因縁などを受け継いで、今日に至っているのですから苦難は避けられないところですが、自分の為にも子孫の為に新しい因縁だけは作らない様に、毎日を生きて行きたいものです。そして、『生かされてい

る』事に対して感謝の念を常に持ち続ける努力をしなければなりません。

現在、感謝の言葉として一番使われるのは『ありがとう』という言葉ですが、本来の意味は、神のお手振りによる奇跡や恵みに対して、有ることが難しい、有難しと神を讃えて発した言葉だと言います。

この世の中、自分の意志とは関係なく多くの人間が生まれ、そして死んでいきます。

この現実を考えてみれば『生かされている』ことがいかに『有難き』ことがわかるはずで、日本中、いや世界中には何らかの理由で困っている人たちが、数えきれない程いるはずで、そんな中で、まず日本人に生まれた事に感謝、毎日は無事に過させて頂いている事に感謝……。感謝しようと思えばいくらでも、対象となる事、対象となる物がたくさんあります。

皆様の心からのおまじりを大神様もお待ちの事と思